

## 審判派遣報告書

報告者（所属）	久樹 拓矢（U15）
期日	2025年2月21日（土）～2月23日（月）
大会名	第8回全日本社会人バスケットボール選手権大会
会場	京都市体育館,島津アリーナ京都
内容・感想	<p>2月10日（火） 事前研修会にて、以下の内容の講義を受けた。4つの項目について審判員全員が共通理解を行い,大会に挑んでほしいというお話しをいただいた。</p> <p>（1）ベーシック・メカニクス （2）ヘルプディフェンスに対するメカニクス （3）プレイコーリング （4）コミュニケーション</p> <p>1. 内容 2月21日（土）15:15～ 女子1回戦 Regain（近畿3位/大阪府）－ 東海クラブ（関東2位/茨城県）</p> <p>CC：塚本圭右（兵庫県） U1：久樹拓矢（徳島県） U2：中西啓太（京都府）</p> <p>○PGCの内容</p> <p>（1）ベーシックなメカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特にヘルプディフェンスへの判定は「現象が起こったエリア」のレフェリーが判定を優先的に行うことを共通理解した。</li><li>・エッジは積極的にリードが判定することを確認した。</li></ul> <p>（2）機材の確認</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第1試合でタイマーのトラブルが起こったため,タイマーを常に目視し,処置ミス0を目指そうという話を行った。</li></ul> <p>○ゲーム後のミーティングより</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・選手が倒れる場面やジャンプボールシチュエーションになるケースが多かった。「なぜ選手が倒れたのか?」「ジャンプボールシチュエーションになる前に何か起きなかったか?」に対してもっと笛を入れておかなければいけないケースがあったのではないかというご指摘をいただいた。映像を振り返ると自分がTの位置で起こったコンタクトを捉えきれてなかったことがきっかけでルーズボールになり,その後の激しいコンタクトが起こったことがわかった。</li><li>・Cサイドでのマッチアップに対する裏のパスへのコンタクトについて,判定に繋げることができなかった場面があった。ボールに意識が寄りすぎ,オフボールのマッチアップを十分に捉えられてなかったことが要因だと考えた。</li></ul>

2月22日(日) 10:00～

男子2回戦

Red Monsters (九州1位/鹿児島県) - Three Horses (近畿2位/大阪府)

CC: 古畑咲 (本部) U1: 外川雄介 (滋賀県) U2: 久樹拓矢 (徳島県)

#### ○PGCの内容

- (1) チームの情報についての意見交換
- (2) プレイコーリング
- (3) コミュニケーションの行方

特に(3)については、事前研修にて古畑様よりご講義していただいた内容だったので、アドバイスもいただいた。

#### ○ゲーム後のミーティングより

- (1) 第1Qからクルー全体でたくさん判定を積み重ね、テンポセットを行うことができた。ベンチから判定に対するコミュニケーションを求められることもあったが、「許容しない基準」を笛で伝えることの重要性を再確認できた。テンポセットの過程ではTプライマリーでのスクリーンプレーの場面でムービングがあったが判定できなかった。技術的な要因もあったが、決断力が課題と感じた。
- (2) ベンチ管理をどのように行うかが難しい試合だった。自分が適切な場面で適切なTFの判定を行うことができなかった。他のクルーは2名ともTFの判定を行ったので自分がTFの判定を行っておれば、その後のクルーのTFはなかったかもしれない。ルールとしてTFがあるからこそ、ルールに則り、適切な判定をしていくことの大切さを痛感した。

## 2. 感想

今回、第8回全日本社会人バスケットボール選手権大会に参加させていただきました。私自身2回目の全国大会での審判であり、2日間本当に実りの多い大会となりました。初日は全国レベルの女子の選手のコンタクトに対して判定に繋げていくことが難しい試合でした。レフェリーディフェンスの重要性に改めて気づかされました。映像を振り返ることで、メカニクスにおける自分自身の課題に気づくことができました。2日目は男子の接触の激しいチーム同士の試合を担当しました。1日目の反省から、Cサイドにおけるプライマリーを意識し、実践できたと思います。県外上級の方々と同じクルーで担当させていただき、所作や振る舞いといったプレゼンテーションの美しさを目の前で見て、自分の課題に向き合うこともできました。今大会で得た経験を今後を活かし、レベルアップを目指して精進します。また、この経験で得たものを県内に還元し、より安定したゲームコントロールができる審判員を目指します。

	<p>最後になりましたが、京都府バスケットボール協会の方をはじめ大会関係者の方々、徳島県バスケットボール協会へ感謝の気持ちを込めて、報告とさせていただきます。</p>
--	---